

ニュースリリース

2019年3月13日

内視鏡検査における AI 支援診断のためのオープンプラットフォームを開発 ～ 消化器内視鏡における CAD (コンピューター支援診断) アプリケーション提供へ～

オリンパス株式会社(社長:笹 宏行)は、胃や大腸、食道などの内視鏡検査において、AI を活用した病変の検出・診断支援技術の開発を行っています。この度、消化器内視鏡画像に関連するさまざまな CAD アプリケーションを医療現場で効率的・ワンストップで活用していただくための「CAD オープンプラットフォーム」を開発しました。

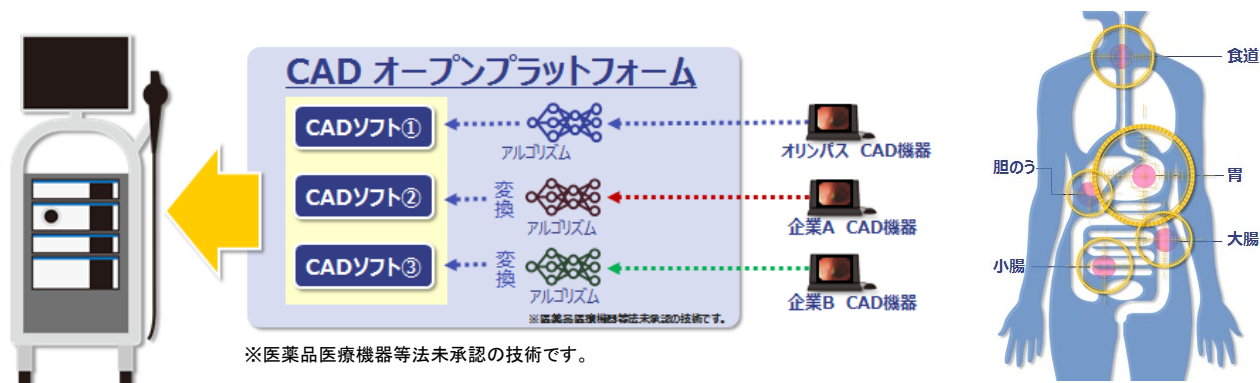
昨今、医療の現場で撮影した画像を AI に認識させ、診断や処置の支援を行うための技術開発が広く行われています。

オリンパスは内視鏡事業における長年の開発実績を生かし、AI による診断・処置支援のための自社技術を開発しているだけでなく、積極的に外部パートナーとの共同開発を進めています。この中で早期の実用化を目指している技術に、医療現場で撮影した画像を使い、AI による診断支援を行う CAD (Computer Aided Diagnosis) があります。CAD には、AI により病変を検出する「コンピューター検出支援 (CADe: Computer Aided Detection)」と、検出した病変から疑われる病名を診断する「コンピューター支援診断 (CADx: Computer Aided Diagnosis)」の2つがあり、既に開発発表を行っている大腸内視鏡画像による CADe だけでなく、現在、胃や食道領域でもこの2つの技術開発を進めています。

こうしたさまざまな CAD アプリケーションを医療現場で効率的・ワンストップで活用していただくため、複数の PC や接続機器を必要とせず、当社の消化器内視鏡システムに接続するだけで、複数の CAD アプリケーションを切り替えて使用することのできる「CAD オープンプラットフォーム」を開発しました。今後、製品化に向け、法規制対応を行いながら、アプリケーションの自社開発だけでなく、オープンプラットフォームとして複数のパートナーとの協業を進めていきます。

● 「CAD オープンプラットフォーム」の特徴

- ・当社製消化器内視鏡システムに接続するだけで、観察中にリアルタイムでコンピューター検出・診断支援の結果を画面上に表示
- ・精度の高い病変の検出・診断をサポート
- ・当社の消化器内視鏡システムトrolley (架台) に載せ、各種装置と連係して使用可能



オリンパスは本年10月12日に創立100周年を迎えます。

これまで当社の発展を支えてくださったお客さまをはじめ、ステークホルダーの皆さまに心より感謝申し上げます。これからも世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現を通して、社会に貢献してまいります。

<本件に関するお問い合わせ先>

- 報道関係の方 : オリンパス株式会社 広報・IR部 堀本
TEL: 03-3340-2134 (直通) FAX: 03-6901-9680
- ホームページ : <http://www.olympus.co.jp>